

Q10 指示理解や学習遂行上の問題に関して

〈このような状態は自閉症の特性からきています。〉

A君は、授業中、教師の話をボーッととしていて聞いていないように見える時があります。またそうかと思うと、廊下から聞こえてくるちょっとした物音に反応して、廊下に走り出してしまうこともあります。

私たちは、一般的に目的以外の様々な刺激を取り込まないようにすることが可能なのですが、自閉症の子どもの一部には、授業中の先生の話よりも、他から聞こえてくる物音に注意を奪われて反応してしまうことがあるのです。

またA君は、教師からノートを持ち主に返すよう頼まれたのですが、その子どもがいなかったためどう行動していいかわからない様子でした。返す相手がいないときの適切な行動はどうすればいいのか、といった状況判断ができなかったようです。これも、自閉症の臨機応変な対応が難しいという特性からきています。

〈このような場合の支援 1〉

小学3年生の知的障害を伴う自閉症の男児。学習中ボーッとしていたり、急に教室の外へ出て行こうとします。このような場合の支援は、その行動の原因をつかむことが大切です。

- ① ボーッとしている場合は、その学習で何をしたらよいのかわからない時である。必要なら、その子どもに合った学習の教材を別に準備することも大切である。
- ② ボーッとしている場合は、「〇〇君」と個別に名前を呼ぶ、体に触れるなどして、その子どもの注意を向けさせる。
- ③ 急に外に出る行動がみられるときは、例えば廊下を誰かが通ったり音がしたりと、必ずはっきりとした原因がある。教師は原因があるということをまず理解することが大切。廊下を通った人や音の正体が分かると、すぐ教室に戻ることもできる。

〈このような場合の支援 2〉

小学5年生の高機能自閉症の男児。ノートを配る仕事を頼まれたのですが、ノートの持ち主がいなかったため、どうしていいかわからない様子でした。このような場合、支援の方法としては以下のようなことが考えられます。

- ④ 状況判断が苦手な場合が多いので、より具体的な指示を出す（例：「ノートを返して」という指示よりも、「ノートを机の上に置いて下さい」）。
- ⑤ 混乱の原因にもなるので、一度にたくさんの指示を出さない。
- ⑥ 指示内容をメモにして渡す。視覚的な手がかりが有効。

学級担任の記録(メモ)

<項目の利用回数>



月／日	対象児の問題	教師やクラスの子どもの対応	対応後の対象児の様子